


▶ 未来に向けたまちづくり

**お知らせ** **本庄駅北口周辺整備基本計画を策定**

★都市計画課 ☎ 25- 1 1 3 8

市では、本庄駅北口周辺のまちづくりの方針として、本庄駅北口周辺整備基本計画を策定しました。地区内の定住促進とにぎわい創出を目的とし、まちの顔である「駅前街区」と骨格である「道路」の整備方針をまとめました。

今後、この計画に基づき、北口周辺地区の未来に向けたまちづくりに取り組んでいきます。なお、計画書は都市計画課（市役所2階）及び市HPでご覧いただけます。



▶ 34 議案を審議


**お知らせ** **令和3年本庄市議会第4回定例会**

★議会事務局 ☎ 25- 1 1 4 8

令和3年市議会第4回定例会が、11月25日から12月21日までの日程で開催されました。

今議会には、「工事請負契約の締結について」、「令和3年度本庄市一般会計補正予算（第11号）」など25議案を提出しました。また、議員提出議案として条例改正の2議案が提出されました。

27日間の審議の結果、閉会中の継続審査となっていた令和2年度決算認定の7議案を含む34議案が原案のとおり、可決・認定・承認・同意され、閉会しました。



▶ 安心して暮らせる地域づくりのために

**募集** **本庄市地域福祉審議会委員を募集**

★地域福祉課 ☎ 25- 1 1 4 2

ふくしの杜ほんじょうプラン21（第2期本庄市地域福祉計画・第2期本庄市地域福祉活動計画）の進行管理及び次期計画の策定にあたり、市民の皆さんの意見を反映するため、審議会委員を募集します。

● **応募資格** 次の条件をすべて満たすこと  
 ① 令和4年4月1日時点で18歳以上であること（高校生を除く）  
 ② 市内に在住または在勤していること  
 ③ 平日の日中に開催する審議会（年3～6回程度）に出席できること  
 ※ 応募日時時点で市の審議会等3機関の委員に委嘱されている方は応募できません。

● **募集人数** 4名  
 ● **任期** 委嘱の日から令和6年3月31日まで  
 ● **報酬** 審議会の出席1日につき6,200円

● **応募方法**  
 応募用紙に必要事項を記入のうえ、「志望動機とこれからの本庄市に必要な地域福祉の取組とは」を800字～1,200字程度にまとめ、郵送、☎または直接応募先へ提出  
 ※ 応募用紙は地域福祉課（市役所1階）、支所総務課（アスパアこだま2階）及び市HPで配付。

● **応募締切** 3月1日（火）午後5時まで（必着）  
 ● **選考方法** 書類選考  
 ※ 結果は応募者に通知します。

● **応募先** 〒367-8501 本庄市本庄3-5-3 本庄市役所地域福祉課  
 ☎ fukusi@city.honjo.lg.jp

「山内清男の考古学」展記念講演会

**山内清男のサケマス論と縄文社会論**  
 -カリフォルニア・インディアンとの比較-

パプアニューギニアの民族誌調査や縄文時代の社会構造を研究するなど、先史考古学界を牽引する高橋龍三郎氏を講師に迎え、山内清男が提唱した「サケマス論」から縄文社会の実態に迫ります。

**日時** 3月21日（祝） 午後2時～3時30分  
**会場** 早稲田リサーチパーク・コミュニケーションセンター3階 レクチャールーム1（西富田1011）  
**講師** 高橋 龍三郎 氏（早稲田大学文学学術院教授）  
**対象** どなたでも **定員** 50名（先着順） **費用** 無料  
**申込** 2月18日（金）午前9時から電話、☎または直接本庄早稲田の杜ミュージアムへ

**「サケマス論」ってなに？**  
 山内博士が提唱した縄文時代の生業に関する理論。縄文文化の東西格差について、縄文時代の遺跡に残る自然遺物の観察と北米カリフォルニア・インディアンとの比較から、縄文時代の経済形態を推定し、縄文時代の東日本が繁栄した理由を、秋に遡上してくるサケやマスという資源の豊富さによるものとした説です。

本庄早稲田の杜ミュージアム

☎ 71-6878  
 ☎ 71-6879  
**開館時間** 午前9時～午後4時30分  
**休館日** 月曜日  
 ※ 休日の場合は翌日  
**入館料** 無料



東五十子地内出土の全国的にも極めて希少な**弓形埴輪**の公開を開始

本庄早稲田の杜ミュージアムでは、全国的にも極めて希少な弓形埴輪を公開しています。この弓形埴輪は高さ約80cmで、小山川クリーンセンター（東五十子地内）の建設工事に伴う、発掘調査で出土した資料です。

**弓形埴輪について**  
 弓矢を表現する埴輪のうち、矢を入れる武具をかたどった**弓形埴輪**は、比較的多く出土していますが、弓形埴輪の出土例は、極めて少数です。埴輪として、弓を表現することの難しさが製作数に反映しているとも考えられます。

**出土遺構について**  
 展示する弓形埴輪は、東五十子古墳群第29号墳で出土した資料です。東五十子古墳群は、東五十子地内の本庄台地に展開する古墳群で5～6世紀にかけて築造されました。直径10～20mの小規模な円墳を主体に構成され、31基の古墳が確認されています。

▲弓形埴輪